



その一瞬が一生の思い出になる

5月20日の野鳥観察会、つり橋周辺にキビタキ数羽。1羽の雄が「ヒッヒッ」鳴きながら他の雄を追い払う。「バチバチ」と羽音も聞こえる。ときどき囀りも交えながら、10分以上そうしていました。

もうかれこれ20年以上ここで野鳥観察をしていて、1羽が1羽を追いかけて回すのは毎年のように見えますが、こんな光景は初めてでした。

野鳥観察で大変なのは、野鳥は動き回る上にすぐに逃げてしまい、なかなか近くで見られないことではないでしょうか。

そこが一部の虫や花とは大きく違うところ。

しかし、野鳥もなぜかすぐには逃げない時があります。

今年5月、森の家の裏に現れた1羽のビンズイ。地面を歩いて餌を探していましたが、その様子に気づいた10人以上が5メートルの距離で撮影していても逃げずに歩き続けていました(写真右上)。



とまっている木に25m以内に近づくだけで逃げてしまうシメが、10m先の草で採餌していたり(写真左下)。

開けた場所にはめったに出てこないヤマシギが、笹がない展望台の松林の地面でじっとして動かなかったり(写真左上)。

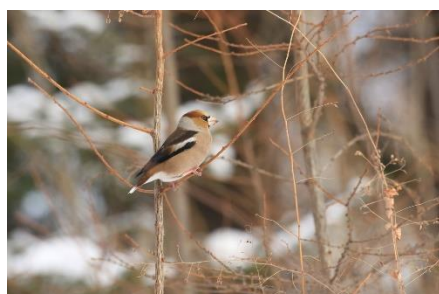
枯れ木をつつくクマゲラ、腰を落とし少しずつ進んで5mまで近寄れたり(写真右下)。

森の家近く、ミュンヘンの森の丘、6月中旬、エゾヤマザクラの実が黒く熟す時期になると、アオバトが実を食べに数羽で集まって来ます。ある年、午後4時過ぎるとアオバトが必ず集まって来るということが4日間続き、その後も来なくなったということもありました。

根気よく待てば、そうした一瞬に出会える確率は高くなります。

でも、そうした一瞬は、観察を続けてさえいれば誰にでも訪れます。

そうした一瞬は一生の思い出にもなりますし、野鳥観察を続ける上で、またそういうことがあるかもしれないと励まされ勇気づけられることにもなります。要は続けることです、休み休みでもいいから。



レストハウス「ぱるく」通信 2023年6月

2023年度は4月14日から再オープンしました。桜前線が例年よりも早く、初日から沢山のお客様にご来店いただきました。

「待っていたよ!」「元気だった?」

「このソフトが一番だね!」等々

嬉しいお言葉を頂きました。ありがとうございます。

さて、今年も野鳥フォトコンテストを開催します。

応募期間は6月10日から6月30日です。

2022年以降に旭山記念公園内で撮影された野鳥のコンテストです。

昨年も沢山の応募を頂きました。

皆様からの素敵な写真をお待ちしております!

詳しくは掲示ポスターやTwitter、Instagramをご覧ください。



テーマは
シマエナガ(幼鳥)
野鳥
昨年入賞作品
Twitter
ルリビタキ
旭山記念公園フォトコンテスト
共催:(公財)札幌市公園緑化協会
応募期間
6月10日(土)~6月30日(金)
どなたでもご応募いただけます!(プロ・アマ問わず)
応募要項

噴水の運転は毎日 10時~20時です

旭山野鳥メモ⑤0 ツツドリ

ツツドリ Oriental Cuckoo *Cuculus oputatus* カッコウ目カッコウ科
北海道で夏鳥。全道山地で普通。旭山ではときおり園内で姿を見る
が藻岩山から「ボボッ」と声が聞こえてくることが多い。8月から9月に
林縁を低く飛ぶ姿を見る機会が増え、幼鳥(右写真)を見る機会もある。

通常背面の羽は灰色だが赤みがある「赤色型」がたまに見られ旭
山でも記録がある。これは変種などではなく遺伝により生じるもの。

山地では道路を横切って飛ぶ姿が比較的良好に見られるが、大きな声
で「ピッピッピッ」と鳴きながら飛び出して来てびっくりすることもある。
尾が長く翼が前の方について、翼の先の方だけで羽ばたくような
独特な飛び方。カッコウとは外見が酷似するがお腹の黒い横縞の太さと密度が見分けのポイント。

カッコウ科の鳥は「杜鵑(トケン)」と呼ばれることがあるが、これはその科の1種ホトギスの鳴き声に由来
するという。旭山では「トケン」4種のうちホトギスのみまだ観察例がない(ホトギスは道南ではやや普通)。

カッコウ科であり托卵をするが、卵を産んで育ててもらう相手は主にセンダイムシクイ。

ツツドリあるある、山でフクロウが鳴いてたよというのでどんな声? と聞くとツツドリだった。姿を見る機会
は少ないが、その声「山のバリトン」は山歩きをする人にはおなじみ、そんな野鳥だ。



2023年6月の野鳥トピックス

◎夏鳥到来情報 アオバト 5/19(1日遅) ハリオアマツバメ 5/28

オオムシクイ 6/3(7日遅) ※以上で今年の夏鳥到来は終わりました

- ・シマエナガ: 5月中旬から見られる機会が減ってきました。幼鳥も今年
は巣立った様子はなく、これから夏の間は観察機会が少なそうです
- ・キビタキ: 園内数か所で囀りを聞き姿が見られることもあります
- ・オオルリ: 藻岩山登山口方面で時々見られる程度で少ないです
- ・ウグイス: 園内数か所で囀りしていますが姿を見る機会は減りました
- ・クマゲラ: 園内で時々見られていますが神出鬼没です
- ・アカゲラ: 先月よりは目立たなくなってきましたがよく見られています
- ・シジュウカラ: 5/29に今年初めて園内で幼鳥が観察されました。他のカラ類もそろそろ幼鳥が出てきます
- ・アオバト: 6月にミュンヘンの森の丘の桜の実を食べに来ますが、今年もちらほらと見られています(上写真雄)



旭山ミニ図鑑2023年6月



エゾシカ 1歳雄



シマヘビ黒化型「カラスヘビ」



ニホンカワトンボ雄今年が多い



ジョウカイボン意外とよく見る甲虫



コムシジひらひら飛ぶ蝶



オニグルミ雌花夏に胡桃になる



エゾアカバナ散策路脇に咲く



コウリンタンポポ多い外来種



公式サイト

「アカゲラ通信」 第116号 2023(令和5)年6月11日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311(金・土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351